

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		中村 英詞		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報処理科		平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度	
学科の目的		ソフトウェア開発からシステム運用まで、ITの分野で活躍するために必要な知識を身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3本を柱とし、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		ITパスポート試験、基本情報技術者試験、情報検定J検2級、MOS 中退者:12名(3.82%)						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,710 単位時間	1,335 単位時間	0 単位時間	1,875 単位時間	0 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)			
320 人	280 人		105 人		38 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		153 人					
	■就職希望者数(D)		125 人					
	■就職者数(E)		113 人					
	■地元就職者数(F)		48 人					
	■就職率(E/D)		90 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		42 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		74 %					
	■進学者数		28 人					
	■その他							
	12人							
(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
サイバーコム株式会社、旭情報サービス株式会社、株式会社ジェイテック、富士ソフト株式会社、住友不動産株式会社、株式会社JR東日本情報システム、JBCC株式会社ほか								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無					
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		2,445 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		810 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		1,710 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		810 単位時間					
	(B:単位数による算定)							
	総授業時数		単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位					
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		4 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人			
	計				9 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
奥屋 善久	株式会社エヌアイディ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
			—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式

第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員から、現行のC言語中心のカリキュラムについて再考を促す意見が寄せられた。現場ではC++やJavaといったオブジェクト指向言語の活用が一般的であり、またNode.jsのような実行環境の知識も求められている。加えて、SQLやクラウドの基礎知識はインフラ・開発分野を問わず不可欠であり、今後はAIの活用を前提としたプロンプト設計力も重要となる。これらを踏まえ、新1年生のプログラミング教育で使用する言語の見直しを行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
特別講義	新たな企業価値を生み出すDX実現にむけたシステム企画や設計段階での企業の取り組みを理解します。	スカイマーク株式会社
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
システム設計	ソフトウェア開発におけるテスト技法について学びます。	株式会社コベルコソフトサービス
Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	トレランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	教職員向けAI業務活用セミナー	連携企業等：	日本工学院 生成AI研究会
期間：	2024/7/25	対象：	日本工学院専門学校教員
内容	生成AIの教育現場への活用方法について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	パターンランゲージ活用研修	連携企業等：	株式会社クリエイティブソフト
期間：	2025/3/18	対象：	日本工学院専門学校教員
内容	熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を学ぶ		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	AWS Academy 講師向けワークショップ	連携企業等：	AWS Academy Japan
期間：	2025年12月開催を計画	対象：	ITカレッジ教員
内容	AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育	連携企業等：	公益財団法人針東京私学財団
期間：	2025年12月開催を計画	対象：	ITカレッジ教員
内容	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況
精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。
・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。
以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。
・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種 別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
壺阪 敏秀	株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
吉崎 彰	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		○
2	○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
3	○			ビジネススキル1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・後	30	2	○			○			○	
4	○			プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを利用し、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○			○	
5			○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○	○		○
6			○	コミュニケーション英語基礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニケーションを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
7	○			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8	○			ITリテラシー	インターネットリテラシーやパソコン操作、Windows 操作などを学びます。	1・前	30	1			○	○		○		○
9	○			ITソリューション	さらなる未来の問題解決に対応できるように、ITトレンド技術に関して学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
10	○			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	1・前	30	1			○	○			○	○
11	○			ストラテジ・マネジメント	システム戦略や経営戦略、マネジメントなどについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12	○			IoTもの作り実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・前	30	1			○	○		○		
13	○			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○		○		
14	○			コンピュータ・テクノロジー1	コンピュータの基礎理論などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
15	○			コンピュータ・テクノロジー2	システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
16	○			アルゴリズム とデータ構造	プログラムを作成する上で重要なアルゴリズム を情報処理試験対策も含めて学習します。	1・ 前	30	2	○			○		○		
17	○			プログラミン グ基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログ ラムを作成します。	1・ 前	60	2			○	○		○		
18	○			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎とな る技術を学びます。	1・ 後	60	2			○	○		○		
19	○			データベース 基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理 機能などデータベースの基礎を学びます。	1・ 後	60	2			○	○		○		
20	○			情報セキュリ ティ	企業の業務システムやコンピュータシステム を安全に利用するために求められる情報セ キュリティについて学習します。	1・ 後	30	2	○			○		○		
21	○			情報系資格対 策講座 1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	1・ 前	30	2	○			○		○		
22	○			情報系資格対 策講座 2	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各 種検定試験対策を行います。	1・ 後	60	4	○			○		○		
23	○			プログラミン グ実習 1	(システム開発コース)「プログラミング基 礎」をベースに、より実践的なプログラミング 技術を学びます。	1・ 後	60	2			○	○		○		
24		○		システム設計 1	(システム開発コース) システム開発過程に おける要求定義から内部設計までに必要とさ れる要求分析技法、各種設計技法の基礎を学 びます。	1・ 後	30	2	○			○		○		○
25			○	基本情報対策 講座 1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた 対策を行います。	1・ 後	30	2	○			○		○		
26			○	資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1・ 前	30	2	○			○		○		
27			○	資格対策講座 2	各種検定資格の対策を行います。	1・ 後	30	2	○			○		○		
28			○	特別講座 1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	1・ 前	15	1	○		○	○		○		○
29			○	特別講座 2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先 端講義を行います。	1・ 後	15	1	○			○		○		○
30			○	Tokyo P-TECH 特別講座	Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行 います。	1・ 通	60	4	○			○				
31			○	Tokyo P-TECH プロジェクト 実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト 実習を行います。	1・ 通	60	2			○	○				

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
32			○	インターン シップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○		○	○		○
33			○	インターン シップ2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	150	5			○		○	○		○
34			○	校外研修1	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修す。	1・前	30	1			○		○	○		○
35			○	校外研修2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修す。	1・後	30	1			○		○	○		○
36	○			キャリアデザ イン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
37	○			キャリアデザ イン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	60	4	○			○		○		
38	○			ビジネススキ ル2	仕事をする際に必要となる電話の対応、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	
39			○	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・後	30	1			○		○	○		○
40	○			Webアプリ ケーション開 発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWebシステムの開発を行います。	2・前	60	2			○	○		○		
41	○			Webセキュリ ティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2・後	30	1			○	○		○		
42	○			卒業制作I	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	2・前	30	1			○	○		○		○
43	○			データベース 応用	リレーショナル型データベースの構築から操作までを実習を通して学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
44	○			クラウドコン ピューティン グ	実際の業務でも使用されるクラウドサービスなど、最先端のITサービスを体験します。	2・前	30	1			○	○		○		○
45	○			Linux実習	LinuxOSのインストールや環境設備を行い、Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
46	○			情報系資格対 策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	60	4	○			○		○		
47	○			情報系資格対 策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	60	4	○			○		○		

	(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			プログラミング実習2	(システム開発コース) 様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・前	60	2			○	○		○		
49	○			プログラミング実習3	(システム開発コース) 様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・後	60	2			○	○		○		

(工業専門課程 情報処理科) (システム開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
50	○			システム設計 2	(システム開発コース) システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
51			○	基本情報対策講座2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
52			○	基本情報対策講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
53			○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
54			○	資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
55			○	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・前	15	1	○			○		○		○
56			○	特別講座4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・後	15	1	○			○		○		○
57			○	インターン シップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5			○		○	○		○
58			○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1			○		○	○		○
59			○	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1			○		○	○		○
合計					59 科目		2445 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目1710時間)以上取得すること		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習1～2、校外研修1～4、インターンシップ1～3、基本情報対策講座1～3、資格対策講座1～4、特別講座1～4、コミュニケーション英語基礎、コミュニケーション英語応用		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		中村 英詞		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報処理科		平成23(2011)年度		-		平成26(2014)年度	
学科の目的		ソフトウェア開発からシステム運用まで、ITの分野で活躍するために必要な知識を身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3本を柱とし、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。								
学科の特徴(取得可能な資格、中途退学率等)		中途退学者 14名(3.8%)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間		1,335 単位時間	0 単位時間	1,875 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
			単位		単位	単位	単位	単位	単位	
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
320 人		280 人		105 人		38 %				
就職等の状況		■卒業者数(C) : 153 人								
		■就職希望者数(D) : 125 人								
		■就職者数(E) : 113 人								
		■地元就職者数(F) : 48 人								
		■就職率(E/D) : 90 %								
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 42 %								
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 74 %								
		■進学者数 : 28 人								
		■その他 : 12人								
		(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価 : 無								
		※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL		http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A : 単位時間による算定)								
		総授業時数					2,625 単位時間			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					930 単位時間			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					単位時間			
		うち必修授業時数					1,710 単位時間			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位時間			
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位時間			
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					930 単位時間			
		(B : 単位数による算定)								
		総授業時数					単位			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					単位			
		うち必修授業時数					単位			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)					2 人			
		② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)					4 人			
		③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
		④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)					2 人			
		⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
		計					9 人			
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					5 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、学校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
奥屋 善久	株式会社エヌアイディ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式

第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員から、現行のC言語中心のカリキュラムについて再考を促す意見が寄せられた。現場ではC++やJavaといったオブジェクト指向言語の活用が一般的であり、またNode.jsのような実行環境の知識も求められている。加えて、SQLやクラウドの基礎知識はインフラ・開発分野を問わず不可欠であり、今後はAIの活用を前提としたプロンプト設計力も重要となる。これらを踏まえ、新1年生のプログラミング教育で使用する言語の見直しを行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
特別講義	新たな企業価値を生み出すDX実現にむけたシステム企画や設計段階での企業の取り組みを理解します。	スカイマーク株式会社
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	トレランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	教職員向けAI業務活用セミナー	連携企業等：	日本工学院 生成AI研究会
期間：	2024/7/25	対象：	日本工学院専門学校教員
内容	生成AIの教育現場への活用方法について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	パターンランゲージ活用研修	連携企業等：	株式会社クリエイティブシフト
期間：	2025/3/18	対象：	日本工学院専門学校教員
内容	熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を学ぶ		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	AWS Academy 講師向けワークショップ	連携企業等：	AWS Academy Japan
期間：	2025年12月開催を計画	対象：	ITカレッジ教員
内容	AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育	連携企業等：	公益財団法人針東京私学財団
期間：	2025年12月開催を計画	対象：	ITカレッジ教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。
・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。
以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。
・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多く作り、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	IT企業等委員/卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	地域関連/会計専門委員
壺阪 敏秀	株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ/デザイン企業等委員
吉崎 彰	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

※(10)及び(11)については任意記載。

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		○
2	○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
3	○			ビジネススキル1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・後	30	2	○			○			○	
4	○			プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを利用し、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○			○	
5			○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○	○		○
6			○	コミュニケーション英語基礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニケーションを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
7	○			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8	○			IT リテラシー	インターネットリテラシーやパソコン操作、Windows 操作などを学びます。	1・前	30	1			○	○		○	○	○
9	○			IT ソリューション	さらなる未来の問題解決に対応できるように、ITトレンド技術に関して学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
10	○			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	1・前	30	1			○	○			○	○
11	○			ストラテジ・マネジメント	システム戦略や経営戦略、マネジメントなどについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12	○			IoTものの作り実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・前	30	1			○	○		○		

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
13	○			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○		○		
14	○			コンピュータ・テクノロジー1	コンピュータの基礎理論などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
15	○			コンピュータ・テクノロジー2	システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
16	○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムを作成する上で重要なアルゴリズムを情報処理試験対策も含めて学習します。	1・前	30	2	○			○		○		
17	○			プログラミング基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログラムを作成します。	1・前	60	2			○	○		○		
18	○			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
19	○			データベース基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機能などデータベースの基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
20	○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1・後	30	2	○			○		○		
21	○			情報系資格対策講座1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
22	○			情報系資格対策講座2	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・後	60	4	○			○		○		
23		○		モバイルプログラミング1	(モバイルアプリ開発コース)「プログラミング基礎」をベースに、より実践的なプログラミング技術を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
24		○		モバイル設計1	システム開発過程における要求定義から内部設計までに必要とされる要求分析技法、各種設計技法の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
25			○	基本情報対策講座1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
26			○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
27			○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
28			○	特別講座 1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・前	15	1	○		○	○		○		○
29			○	特別講座 2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・後	15	1	○			○		○		○
30			○	Tokyo P-TECH 特別講座	Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行います。	1・通	60		○			○				
31			○	Tokyo P-TECH プロジェクト実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト実習を行います。	1・通	60				○		○			
32			○	インターンシップ 1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○		○	○		○
33			○	インターンシップ 2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	150	5			○		○	○		○
34			○	校外研修 1	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1・前	30	1			○		○	○		○
35			○	校外研修 2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1・後	30	1			○		○	○		○
36	○			キャリアデザイン 3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
37	○			キャリアデザイン 4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	60	2	○			○		○		
38	○			ビジネススキル 2	仕事をする際に必要となる電話の応対、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	
39			○	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めま す。	2・後	30	1			○		○	○		○
40	○			Webアプリケーション開発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWebシステムの開発を行います。	2・前	60	2			○	○		○		
41	○			Webセキュリティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2・後	30	1			○	○		○		
42	○			卒業制作 1	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	2・後	180	6			○	○		○		○

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
43	○			データベース 応用	リレーショナル型データベースの構築から操作までを実習を通して学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
44	○			クラウドコンピューティング	実際の業務でも使用されるクラウドサービスなど、最先端のITサービスを体験します。	2・前	30	1			○	○		○	○	

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
45	○			Linux実習	LinuxOSのインストールや環境設備を行い、Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
46	○			情報系資格対策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	60	4	○			○		○		
47	○			情報系資格対策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	60	4	○			○		○		
48			○	基本情報対策講座2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・前	45	2			○	○		○		
49			○	基本情報対策講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・後	45	2			○	○		○		
50			○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
51			○	資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
52			○	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・前	15	1	○			○		○		○
53			○	特別講座4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・後	15	1	○			○		○		○
54			○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5	○			○		○		○
55			○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1	○			○		○		○
56			○	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1	○			○		○		○
57		○		モバイルプログラミング2	様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・前	60	2			○		○	○		
58		○		モバイルプログラミング3	様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・後	60	2			○		○	○		
59		○		モバイル設計2	(モバイルアプリ開発コース) システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・前	30	2			○		○	○		

(工業専門課程 情報処理科) (モバイルアプリ開発)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計				59 科目			2625 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法								授業期間等			
卒業要件： 卒業時に必修科目1710時間) 以上取得すること								1 学年の学期区分		#REF! 期	
履修方法： 以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習 1～2、校外研修 1～4、インターンシップ 1～3、基本情報対策講座 1～3、資格対策講座 1～4、特別講座 1～4、コミュニケーション英語基礎、コミュニケーション英語応用								1 学期の授業期間		#REF! 週	

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日		中村 英詞		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日		千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度	
工業	工業専門課程		情報処理科		平成23(2011)年度		-		平成26(2014)年度	
学科の目的		ソフトウェア開発からシステム運用まで、ITの分野で活躍するために必要な知識を身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3本を柱とし、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		中途退学者 12名(3.8%)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,710 単位時間	1,335 単位時間	0 単位時間	1,875 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
					単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)				
320 人		280 人		105 人		38 %				
就職等の状況		■卒業者数(C) : 153 人								
		■就職希望者数(D) : 125 人								
		■就職者数(E) : 113 人								
		■地元就職者数(F) 48 人								
		■就職率(E/D) 90 %								
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) 42 %								
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C) 74 %								
		■進学者数 28 人								
		■その他 12人								
		(令和 6 年度卒業者に関する令和7年 5 月 1 日時点の情報)								
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価 : 無								
		※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体 : 受審年月 : 評価結果を掲載したホームページURL								
当該学科のホームページURL		http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A : 単位時間による算定)								
		総授業時数					2,595 単位時間			
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					930 単位時間			
		うち企業等と連携した演習の授業時数					0 単位時間			
		うち必修授業時数					1,710 単位時間			
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					0 単位時間			
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					0 単位時間			
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					940 単位時間			
		(B : 単位数による算定)								
		総授業時数					単位			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数					単位					
うち必修授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数					単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数					単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)					単位					
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)					3 人			
		② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)					4 人			
		③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)					0 人			
		④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)					2 人			
		⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)					0 人			
		計					9 人			
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					5 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から3名以上を委員として構成する。本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	①
奥屋 善久	株式会社エヌアイディ ICTデザイン事業部長 ANA部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
阿部 秀嗣	株式会社クオーレ 代表取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院専門学校 校長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
兒島 正広	日本工学院専門学校 ITカレッジ カレッジ長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山本 純士	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—
山下 恵子	日本工学院専門学校 ITカレッジ 情報処理科 主任	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(09月、02月)

(開催日時(実績))

第1回 2024年9月20日 対面及びWeb会議方式

第2回 2025年3月19日 対面及びWeb会議方式

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員より専門学校の教育では今後より一層ジョブ型雇用の増加が予想されるため、基本的な専門スキルはもとより社会の中での課題について、積極的に取り組むことができる実践スキルやマインドが必要となるのご意見を頂いた。「システム開発グループ演習」や「IoT実習」では、社会生活の中から課題を見つけし解決策となるシステムの開発に取り組むなど授業内容をさらに改善し工夫した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
特別講義	新たな企業価値を生み出すDX実現にむけたシステム企画や設計段階での企業の取り組みを理解します。	スカイマーク株式会社
ITリテラシー	クラウドコンピューティングを活用したアプリケーション開発の技法を習得する。	サイボウズ株式会社
Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	トランスアクト株式会社
キャリアデザイン	IT業界における様々な職種の具体的な仕事内容を理解する。	株式会社第一情報サービス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	教職員向けAI業務活用セミナー	連携企業等:	日本工学院 生成AI研究会
期間:	2024/7/25	対象:	日本工学院専門学校教員
内容	生成AIの教育現場への活用方法について		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	パターンランゲージ活用研修	連携企業等:	株式会社クリエイティブソフト
期間:	2025/3/18	対象:	日本工学院専門学校教員
内容	熟練者の実践知を「状況・問題・解決」の構造で言語化し、知識を他者と共有・活用できるようにする手法を学ぶ		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AWS Academy 講師向けワークショップ	連携企業等:	AWS Academy Japan
期間:	2025年12月開催を計画	対象:	ITカレッジ教員
内容	AWSコースの要点や学生に伝えるポイントなどについて触れつつ、教員間での指導方法などでの議論する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育	連携企業等:	公益財団法人針東京都私学財団
期間:	2025年12月開催を計画	対象:	ITカレッジ教員
内容	STEAM教育、職業教育、プログラミング教育の先進事例を学ぶ		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多くつくり、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在中するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
壺阪 敏秀	株式会社テレビ神奈川 取締役・編成局長兼 報道局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協 会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	クリエイターズ /デザイン企業 等委員
吉崎 彰	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
田山 順一	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和7年4月1日 ～令和8年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報処理科) (システム運用)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		○
2	○			キャリアデザイン2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
3	○			ビジネススキル1	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1・後	30	2	○			○			○	
4	○			プレゼンテーション	プレゼンテーションソフトを利用し、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○			○	
5			○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○	○		○
6			○	コミュニケーション英語基礎	英語であいさつや自己紹介、簡単なコミュニケーションを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
7	○			外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8	○			IT リテラシー	インターネットリテラシーやパソコン操作、Windows 操作などを学びます。	1・前	30	1			○	○		○		○
9	○			IT ソリューション	さらなる未来の問題解決に対応できるように、IT トренд技術に関して学びます。	1・後	30	2	○			○		○		○
10	○			Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	1・前	30	1			○	○			○	○
11	○			ストラテジ・マネジメント	システム戦略や経営戦略、マネジメントなどについて学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12	○			IoTもの作り実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・前	30	1			○	○		○		
13	○			IoT実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○		○		
14	○			コンピュータ・テクノロジー1	コンピュータの基礎理論などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		

(工業専門課程 情報処理科) (システム運用)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
15	○			コンピュータ・テクノロジー2	システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○		○		
16	○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムを作成する上で重要なアルゴリズムを情報処理試験対策も含めて学習します。	1・前	30	2	○			○		○		
17	○			プログラミング基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログラムを作成します。	1・前	60	2			○	○		○		
18	○			Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
19	○			データベース基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機能などデータベースの基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
20	○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1・後	30	2	○			○		○		
21	○			情報系資格対策講座1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
22	○			情報系資格対策講座2	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・後	60	4	○			○		○		
23	○			運用エンジニアリング	ITシステムの円滑な運用に必要な知識と技術を学びます。	1・後	60	2			○	○		○		
24	○			ネットワーク	(システム運用コース) LANやWANなどを中心とした基礎的なネットワーク技術を学習します。	1・後	30	2	○			○		○		
25			○	基本情報対策講座1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
26			○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
27			○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
28			○	特別講座1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・前	15	1	○		○	○		○		○
29			○	特別講座2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・後	15	1	○			○		○		○

(工業専門課程 情報処理科) (システム運用)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
30			○	Tokyo P-TECH 特別講座	Tokyo p-TECH対象学生に対する特別講座を行います。	1・通	60	4	○			○				
31			○	Tokyo P-TECH プロジェクト実習	Tokyo p-TECH対象学生に対するプロジェクト実習を行います。	1・通	60	2			○	○				
32			○	インターンシップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	30	1			○		○	○		○
33			○	インターンシップ2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1・後	150	5			○		○	○		○
34			○	校外研修1	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1・前	30	1			○		○	○		○
35			○	校外研修2	AI や IoT、VR など、ICT の先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れま校外研修 す。	1・後	30	1			○		○	○		○
36	○			キャリアデザイン3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
37	○			キャリアデザイン4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2・後	60	2	○			○		○		
38	○			ビジネススキル2	仕事をする際に必要となる電話の対応、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2・前	30	2	○			○			○	
39			○	スポーツ実習2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・後	30	1			○		○	○	○	○
40	○			Webアプリケーション開発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWebシステムの開発を行います。	2・前	60	2			○	○		○		
41	○			Webセキュリティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2・後	30	1			○	○		○		
42	○			卒業制作	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	2・前	180	1			○	○		○	○	○
43	○			データベース応用	リレーショナル型データベースの構築から操作までを実習を通して学びます。	2・前	30	1			○	○		○		
44	○			クラウドコンピューティング	実際の業務でも使用されるクラウドサービスなど、最先端の I T サービスを体験します。	2・前	30	1			○	○		○		○

(工業専門課程 情報処理科) (システム運用)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
45	○			Linux実習	LinuxOSのインストールや環境設備を行い、Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びます。	2・前	60	2			○	○		○		
46	○			情報系資格対策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	60	4	○			○		○		
47	○			情報系資格対策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	60	4	○			○		○		
48			○	基本情報対策講座2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・前	30	2			○	○		○		
49			○	基本情報対策講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策を行います。	2・後	30	2			○	○		○		
50			○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
51			○	資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
52			○	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・前	15	1	○			○		○		○
53			○	特別講座4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・後	15	1	○			○		○		○
54			○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2・後	150	5	○			○		○		○
55			○	校外研修3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1	○			○		○		○
56			○	校外研修4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1	○			○		○		○
57		○		サーバ構築実習1	(システム運用コース) インターネットや企業内で利用される様々なサーバを構築します。	2・前	60	2			○		○	○		
58		○		サーバ構築実習2	(システム運用コース) インターネットや企業内で利用される様々なサーバを構築します。	2・後	60	2			○		○	○		
59			○	運用管理	(システム運用コース) 標準的なコンピュータの運用管理法を学びます。	2・前	30	2			○		○	○		

(工業専門課程 情報処理科) (システム運用)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
合計				59 科目		2595 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法								授業期間等	
卒業要件：卒業時に必修科目1710時間)以上取得すること。								1 学年の学期区分	#REF! 期
履修方法：以下の科目は授業時間割外で実施 スポーツ実習 1～2、校外研修 1～4、インターンシップ 1～3、基本情報対策講座 1～3、資格対策講座 1～4、特別講座 1～4、コミュニケーション英語基礎、コミュニケーション英語応用								1 学期の授業期間	#REF! 週

- (留意事項)
- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。